



医療・介護と地域の連携を広げて

こんにちは。新しい年をいかにお過ごしですか。年明けから悲しい知らせが続きます。被災された方々の生活が回復するまで息の長い支援を続けたいですね。募金にもご協力ください。また、災害への備えについても考える機会にするのも大事だと思います。

医療・介護の多様な施策

新型コロナウイルスによる行動制限が緩和され、市民の活動が再開し、福祉や医療の催

しも多く開かれています。

私も10月から11月にかけて医療や介護の講演会などに出かけ、刺激をたくさん受けました。12月議会の一一般質問では、これらの体験を紹介しながら、それぞれの専門職を中心に連携を図りながら、市民にやさしい医療・介護を提供できる体制づくりを問いました。

市は医療・介護等の関係団体で構成されるコミュニケーションケアネットワーク川越とともに医療介護従事者の

資質向上を目的に医療介護フォーラムを平成26年度から開催し、令和4年度からは在宅医療と介護の連携医

に関する理解を深めるため、参加者を市民に拡大しました。また、地域のつながりを意識した介護予防の取り組みとして、地域包括支援センターが介護予防サポーターの養成、自主グループの立ち上げを支援し「いもっこ体操」を身近な場所で行って民同士のグループで行っています。住民グループは約190団体あり、体操だけでなく茶話会など、人と地

鶴ヶ島駅西口整備の現状

鶴ヶ島駅の橋上駅舎は1983年に竣工で、市内の

駅では比較的早く駅の両側が整備されています。

西口駅前広場は路線バスやタクシーの乗降のほか、

一般車の送迎も多く、路線バスが乗降場に正着できなかったため、歩道から直接バスに乗降できなかったり、歩道と車道の高低差が25cmと大きく、改善を求める声が寄せられてきました。

過去にも議会に取り上げてきましたが、あまり動きが見られないので一般質問で様子を質しました。

平成28年、29年には駅前広場の測量や設計業務を実

施していましたが、2020東京オリンピックのゴルフ競技開催決定により他の駅の整備が優先されたため鶴ヶ島駅の整備は白紙の状態となっていました。

市内には鉄道駅が11と多く、大規模な整備を同時に行うのは難しい事情もあり事業化には至っていません。近年では路面の損傷や水溜まりの修繕など、その都度対応しています。今後の見通しを問うと、鶴ヶ島市との協議で段階的な改修を検討しているとの答えでした。大きな改修でなくても、できるところから改善を図るように求めました。

域が繋がる交流の場にもなっています。

医療・介護の相談窓口

相談窓口として市は医師会への委託で在宅医療拠点センターを設置、令和3年には、すすく川越に高齢者在宅療養相談窓口を開設、9つの地域包括支援センター

と2つの分室も含め専門職が連携を図りながら多様な相談に応じています。

専門職と一体で、市は積極的に地域に向き、一緒に仕事をし、共感を広げながら医療・介護を必要とする人たちが心地良いと感じるサービスをと訴えました。

霞ヶ関駅西側踏切が広がりました



拡幅された霞ヶ関駅西側の踏切の様子

県道川越越生線と東武東上線が交差する霞ヶ関駅西側の踏切は通行量も多く、歩行者が横断するには危険な場所でした。議会でも私を含め多くの議員が拡幅等の改善を求めてきました。

市は県や東武鉄道との協議しながら事業を進め今年度に踏切が拡幅されました。歩行者と車両の通行帯が分離され、横断時の車両への心配が軽減されました。

分かりやすく伝える工夫を

市議会のインターネット中継をご覧になったことはありますか。議案の質疑や一般質問が動画で見られるようになっていきます。少し前に市役所7階の本会議場を改修し、大型のモニターを設置したこともあり、今

回の議会では資料を作成してモニターに映しながら質問してみました。

技術の進歩を仕事に取り入れるとお互いの認識を分かりやすく共有できます。私も少しづつ取り入れていこうと考えています。

市民に冷たい市政からの転換を

12月市議会へ

年頭にあたり、統一地方選で掲げた「いのち、暮らし最優先の政治に」全力で取り組んでいく決意です。元旦、能登半島沖で震度7の地震が発生し甚大な被害を出しています。被災された方々にお見舞い申し上げます。



昨年を振り返ると、コロナによる制限が撤廃されたものの物価高騰とインボイス強行、減税と言いつながら大軍拡増税の方向に変わりはなく、先進国の中で唯一賃金が上がらない国になっています。このようなもと自民党・パーティー券裏金問題が発覚し、政治資金パーティーや企業団体献金の禁止の声が上がっています。

市政においては、国と密接な関わり合いがある後期高齢者医療保険や国民健康保険税の値上げ、介護保険制度の改悪、12月市議会では長寿祝い金の縮小など高齢者や弱者に冷たい政治が行われています。誰もが尊厳ある生き方ができるよう、国の不十分なところを補うのが市政の役割です。これからも赤ちゃんから高齢者までみなさんが安心して暮らせる市政を目指して頑張ります。

物価高騰対策支援など補正予算 47億6606万円

【補正予算・第5号】

11億2541万円

- ① こども医療費の増 2億7231万円
 - ② 県内医療機関で窓口払い無料、コロナ5類、インフルエンザ流行で医療費増加の為。
 - ③ 保育所・小規模保育等の増 1億5312万円
 - ④ 運送事業者支援金 9025万円
 - ⑤ 小中学校体育館エアコン整備 1320万円
- 工事完了は第1期↓今年9月末、第2期↓令和7

【補正予算・第6号】

27億3914万円

令和5年度住民税非課税世帯への7万円（2月給付）。高齢者・障害者施設や民間保育所の運営継続費と給食食材費高騰に對しての支援ほか。

【補正予算・第7号】

9億2151万円

令和5年度住民税均等割のみ課税世帯に10万円給付、こども加算給付金として18歳以下の子どもに1人5万円（2月中旬給付）。

文化教育常任委員会
(副委員長)

池浜あけみ議員



総務財政常任委員会
こんの英子議員



保健福祉常任委員会
(委員長)
かきた有一議員



産業建設常任委員会
川口ともい議員



国保税の値上げに反対

今回の改正内容は、①均等割額と所得割税率の改定 ②課税限度額の引き上げ ③産前産後期間の保険税減額の3点です。

物価高騰など市民生活が大変な中、保険税を引き上げるべきではありません。埼玉県が率先して、保険税率統一を推進しています。国保の構造的矛盾を解消しないまま、赤字解消

所得税均等割の引上げ

	40から64歳	40未満・65歳以上
改正前	49,200円	36,900円
改正後	55,800円	42,200円
負担増	6,600円	5,300円

長寿祝い金の改悪

川合市政となった平成21年に健康長寿奨励金が廃止され、75歳以上への支給から、77歳、88歳、99歳の節目と、100歳以上へと縮小されました。今回はさらに、88歳と100歳、男女

12月市議会の経過

12月市議会は11月27日から12月25日まで29日間開かれ、追加提出された補正予算を含め、市長提出の26議案と農業委員会委員の任命17件を可決し閉会しました。日本共産党は、支給額が縮小される『長寿祝い金支給

の最高齢者のみに限定されます。年々高齢者が増えるとはいえ、10年後の合計支給額は昨年度比で3千万円増の1億829万円。この額は本市の財政を圧迫するものではなく、高齢者が楽しみにしている事業を縮小すべきではありません。

条例の一部改正』に川口ともい議員が討論、均等割等が引き上げられる『国民健康保険条例の一部改正』にこんの英子議員が討論し、それぞれ反対、その他の24議案と人事案件には賛成しました。

市民要求を掲げ一般質問

こんの英子議員

1. ジェンダー平等の理解を広める取組みについて
2. 市内大学・高校との連携によるまちづくりについて

池浜あけみ議員

1. 山車を保存し生かすために
2. シルバー人材センターについて

川口ともい議員

1. 食の安全・安心の確保と農業振興について
2. 川越シャトルの利便性向上について

かきた有一議員

1. 医療・介護と地域のつながりを広げるために
2. 鶴ヶ島駅西口の整備について

